

あけまして おめでとうございます

2025年、新しい年がスタートしました。みなさんはどんな冬休みを過ごしましたか？お正月には初詣に行ったり、お節料理を食べたり、お年玉をもらったりと、普段とは違う特別なことがたくさんあったのではないのでしょうか。

図書館にはこれから2月にかけて、新しい本が入ってくる予定です。気持ちを新たに、自分で目標冊数を決めて3学期も読書を楽しんでくださいね。



としは巳(へび)年

【巳年はどんな年になる？】

「巳」をあらわす蛇は脱皮をし、新たな姿に生まれ変わり成長することから、「復活」や「再生」を意味します。今年は新しいことにチャレンジをして、自分の夢に向かって一歩ふみ出せる年にしたいですね。

【蛇がつく言葉】

- 長蛇** 大きな蛇が転じて、長く並んでいるもののたとえ。「長蛇の列」
- 蛇行** 蛇がはうように、くねくねと左右に曲がって行くこと。「蛇行運転」
- 蛇腹** 蛇の腹のような形状から、山折りと谷折りを繰り返して作られたもの。アコーディオン、提灯などの伸縮する部分。
- 蛇の目** 蛇の目のように、太い輪の形をした図形。
 →童謡「あめふり」の歌詞にある「じゃのめ」は蛇の目傘のこと。
- 蛇足** つけ加える必要のない余計なもの。なくても良い無駄なもの。
 →へびの絵を描く競争で、ないはずの足まで付け加えて競争に負けたという中国の故事から。



1月の図書館のよてい

返却期間は、1月8日(水)から1月10日(金)です。

かならず返しましょう！

※1月14日(火)より通常貸出を始めます。

おすすめの本



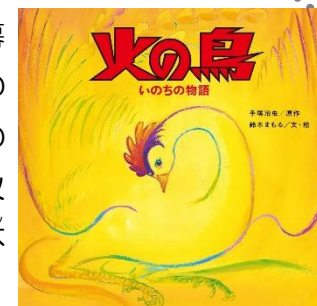
おふくさん (服部美法 文/ 絵)

みんなで仲良く暮らしている10人のおふくさんたち。ある日おにが「おまえたちをこわがらせてやるぞ！」とやってきました。けれど、おふくさんたちは。こわがるどころかおにを笑わせようとします。この対決、一体どうなるのでしょうか？！
 「笑う門には福来る！」いつもニコニコ笑顔のおふくさんたちを見ていると、ほっこり楽しい気持ちになりますよ。



火の鳥 いのちの物語 (手塚治虫/原作・鈴木まもる/文絵)

地球上には多くの生命が生きています。それぞれの環境に暮らし、新しい生命を生み出しています。生命はどこから来るのか？なぜ生きるのか？火の鳥が今を生きる人たちへ生命の不思議、生きることの大切さを語ります。手塚治虫の最高傑作『火の鳥』初の絵本化！鳥の巣研究家で手塚作品に憧れてきた絵本作家、鈴木まもるさんが命の尊さをあざやかに描いています。



みんなで描こう！黒板アート (すずきらな 著)

教室の黒板が思いを伝えるキャンバスになる「黒板アート」。テレビなどでも紹介され、見たことがある人も多いのではないのでしょうか。この本では、黒板アーティストの著者が、チョークの使い方や色の混ぜ方などのテクニックを、簡単なものから紹介。まねして描いてみるのも良いですし、見るだけでも楽しめる一冊です。

